

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.30
2015. June

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。

95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ユニット 4床
- ・重症心身
- 障がい 80床
- ・医療観察法 37床



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第1回九州地区合同DPAT研修会を開催しました

国立病院機構琉球病院 副看護師長 奥浜 伸一

DPATとは東日本大震災時のこころのケア活動で浮き彫りとなった精神保健医療支援活動の課題を克服するために、平成25年度厚生労働省発令の下、災害時こころの情報支援センターと連携してスタートを切った新しい事業です。Support (名脇役であれ)、Share (積極的な情報共有)、Self-Sufficiency (自己完結型の活動) を3原則に、災害時には急性期～中長期に渡ってこころのケアも含めた精神保健医療支援活動を行います。DPAT活動マニュアルも作成され、その中でもDPAT活動を行う人材育成のために各地域や自治体でDPAT研修を開催することが求められています。

平成27年2月7、8日に肥前精神医療センター主催、佐賀県共催で第1回九州地区合同DPAT研修会が肥前精神医療センター医師養成研修センターにおいて開催されました。DPAT研修会が地区単位で開催されるのは全国初の取組みであり、九州8自治体から精神保健センター職員、県庁職員、県立病院職員など多数参加がありました。NHOからは肥前精神医療センター、琉球病院の2施設が参加し、運営スタッフ、講師、ファシリテーターとして研修会全体をマネジメントしました。



研修会は災害時こころの情報支援センター渡路子先生よりDPAT活動の意義、DPATの取組みが災害時だけでなく、平時の精神科医療の底上げに繋がるという講義から始まりました。佐賀県障害福祉課からは行政機関の役割や連携について、災害時こころの情報支援センターからは災害精神保健医療情報支援システム (Disaster Mental Health Information Support System: DMHISS) についての講義もありました。肥前精神医療センター 高尾碧先生、NHO災害医療センター河野謙先生からは、災害医療の基本、災害急性期の身体医療チームDMAT、一次トリアージ (START法) について講義をしていただき、災害時のロジスティックスの講義では、実際にトランシーバーや衛星電話を使用して情報伝達を行い、普段の精神科医療の現場では経験できない災害時の急性期医療について学ぶことができました。

2日目の演習では佐賀県川久保断層地震を想定して、自治体ごとに役割分担し、発災直後からのDPAT活動をシナリオに沿ってシミュレーションしました。DPAT活動が初めての参加者も多かったですが、悩みながらもそれぞれの演習課題に取組みました。演習終了後に自分たちの活動を振り返り、実際の災害現場を想定したDPAT訓練をくり返す必要性を共有できました。

本研修を通じて、各自治体へDPAT活動について知って頂けたことは大きな成果ですが、九州の災害時において精神保健医療支援活動を支える方々と、お互いの顔が見える関係作りができたことが最も意義があったと考えます。今後、第2回、第3回と継続していくことで、この関係がより強固なものになっていくと確信しています。

本研修を主催して頂いた肥前精神医療センター、共催の佐賀県、また研修運営に当たりご指導・ご助言を頂いたこころの情報支援センターに感謝し、今回運営スタッフとして参加させて頂いた経験を、今後の沖縄県や全国のDPAT研修に活かしていきたいと思っております。



●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖繩バス [77番名護東線] 浜田バス停下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖繩自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第1期)工事 (株)浅沼組
建築(第2期)工事 (株)浅沼組
新病棟(第1期工事)完成予定 平成27年7月

教育・研修

- 「琉球病院ちゃーびら祭」平成27年6月11日(木)10:00~15:00 於:あしびなあ体育館
作品展・西病棟太鼓・踊り・カラオケ大会
- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修 平成27年6月8日(月)~6月11日(木)4日間 対象:新規採用職員等
理論編(リスクアセスメント・ディエスカレーション他)・実技編

地域医療連携室だより

当院には、1名のソーシャルワーカーと9名の精神保健福祉士がおります。精神保健福祉士は地域医療連携室での外来業務の他に各病棟も担当しております。また、統合失調症、アルコール依存症、発達障害、医療観察法の対象者のご家族向けの家族教室も開催しております。問い合わせ窓口は地域医療連携室になっております。関心がある、参加してみたいと考えている方は、地域医療連携室(内線231234)までご連絡ください。段々と暑さが厳しくなる季節となりますが、体調管理に気をつけてお過ごしください。ご相談事がありましたら、お気軽に連絡ください。

お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
FAX: 098-968-7370
地域医療連携室直通



空床状況
5月27日現在

精神科病棟
3床

認知症
2床

アルコール
3床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は137例になりました。平成27年4月の新規のCLZ導入は3例でした。2例は他の医療機関に入院されていた患者様であり、うち1例は粗暴行為などのために隔離をされていた患者様で、今回CLZ導入目的で当院に転院になったものです。重度の精神症状を持った患者様がCLZ治療により回復され、その退院数も60例を超えています。週に3回の専門外来も行っていきますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年4月の治療実績は5例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

4月に肥前精神医療センターより瀧泉先生が赴任され、6月からは専属のケースワーカーも配置されることになり、児童思春期の診療体制がこれまで以上に充実したものとなります。新患待機の解消（減少）、困難事例の受け入れ、県内専門職向けの研修会など、新体制で準備を進めております。こどもの支援は医療機関だけで完結するものではなく、地域との繋がりが必須であり、今年度は地域とのネットワーク作りにも努めていきたいと考えております。

<研修会案内>日時：2015年7月3日（金）15時～17時 場所：琉球病院研修棟3階会議室 講師：山崎透先生（静岡県立こども病院）

定員：50名 申し込み先：琉球病院心理療法室 sinri@ryu-ryukyu.jp 野村

認知症医療

認知症治療病棟は、7月に新病棟へ移転します。新病棟は、患者様が治療、生活を快適に行えるように療養環境を整えています。そこで、地域の方々に新しい病棟を見ながら、認知症を知って頂くために、7月5日（日）10時から13時30分の予定で見学会を開催いたします。内容として病棟内の見学と共に認知症に関するレクチャー、認知症予防リハビリ体験などを行います。また、物忘れ相談、心配事や疑問などある方には個別の相談コーナーもあります。お昼に軽食を摂りながら懇談する場も設けておりますので、認知症に関心のある方は是非おいで下さい。

重症心身障がい児医療

当病棟の利用者様にとって、食事は大変貴重な時間です。食の欲求を満たすことは、穏やかな気持ちで生活を送るための条件とも言えます。今回は病棟での食事介助をさせて頂いている際のお話です。Mさんは、咀嚼・嚥下機能を考慮してペースト食を召し上がっていらっしゃいます。しかし味の好みは明確で、「味の濃い」おかずにしからずスプーンを伸ばされません。おそらく一人で召し上がられた場合、おかずのみしか召し上がらないでしょう。ただご自身で食べたいという意思は尊重して差し上げたいので、おかずは自力で召し上がって頂き、職員は白飯や食べにくいゼリー類をスプーンで口に運ぶ形で介助しています。

しかし問題は、Mさんがお茶嫌いなことです（これまた甘い飲み物はお好きです）。そこでMさんの水分補給方法として、お茶をゼリー状に固めた「お茶ゼリー」を使用しています。ただしMさんは、お茶ゼリーでもそれ程好きではないようで、食後の摂取は嫌がられます。考えた末の工夫として、お茶ゼリーを最初に摂取し、その後にスプーンを持って頂き、前述のようにおかずや白飯を摂取して頂くようにすると、スムーズに全量摂取出来ておられます。様々な工夫が必要な食事介助ですが、利用者様の好み分かると、その方をより理解出来たような気にもなります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では4月現在、外来通院の患者様58名、入院中の患者様23名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

<平成27年度第11回アルコール関連問題地域職員研修会のご案内>

平成27年6月2日（火）、平成27年度第11回アルコール関連問題地域職員研修会を開催します。この研修会は、アルコール依存症をはじめとしたアルコール関連問題に対する地域の人育成を目的に、平成22年に第1回を開催致しました。以後毎年研修会を継続しております。また、この研修会をはじめとして、今年度は、多量飲酒者への早期介入の研修会（肥前精神医療センターとの共催）、未成年の飲酒問題対策の研修会、依存症家族のためのCRAFT研修会（講師に藍里病院吉田次先生をお招きしています）と4種類の研修会を開催致します。これらの研修会を通して、当院と地域、行政の職員同士の顔が見える関係が作られてきました。興味のある方はぜひお問い合わせ下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

現在、ラクト（R-ACT）対象者8名の方の支援を行っています。作業所やデイケアでの就労訓練などを行い、病気と仲良く付き合いながら、就労をしたいと考えている方は、日々新たな挑戦をしています。進捗状況は対象者個々のステップは違いますが、将来なりたい自分を目指して、今できることを精一杯努力している姿は、家族や支援者の大きな励みにもなっています。多くの対象者は作業所へ通所していますが、1名の方はパートではありますが、就労をしています。服薬の遵守や外来通院もきちんと行えています。2年間支援をしてきた、私たち支援者は、本人自身の行動力に驚くと同時に、あらゆる可能性を信じることを学びました。欲しい商品があり、給料をためて購入したいと貯金を行っています。小遣いをためて、外食をする予定も計画をしています。なかなか期待する結果を出すことはできなくても、対象者に寄り添いながら、可能性を信じて日々アウトリーチ活動を継続したいと思っております。

臨床研究部活動状況

【昨年度の臨床研究活動状況について】

平成24年度より臨床研究部が発足し、3年が経過いたしました。昨年度より、臨床研究部長が福治院長から大鶴副院長に引き継がれ、新体制でのスタートをきりました。昨年度は、論文文化されたのが11本（著書含む）、学会発表が43本、講師としての研修・講習参加は32回となり、一昨年度を上回る結果となりました。内容においても、木田医師のクロザピン治療に関する研究が症例報告賞を受賞し、今後の発展が期待されております。日々の臨床実践の中で、仮説を立てて検証する、という作業がスタッフに馴染んできたことが、昨年度の活動状況に反映されたと思います。この取り組みを業績集としてまとめていく予定です。